

翻刻『曙第9巻第1号』（全文）

野中モニカ（天理大学）

はじめに

本稿はブラジルサンパウロ州ノロエステ沿線上のアラサツバ市カフェーズポリス植民地の日本人会が1939年に発行した会報誌『曙第9巻第1号』の全文翻刻である。

カフェーズポリス植民地はサンパウロ市から約500キロ離れた、サンパウロ州の北西地域に位置するアラサツバ市から4キロの地点に、1929年に形成された日本人植民地である。サンパウロ州における日本人移民は、サンパウロ市を起点とした主要鉄道沿線に展開し、州内全域に拡大した。とりわけ移民船到着港がある沿岸部サントスからサンパウロ州の北西奥地に向かい、ちょうど州の中心地付近に当たるバウル市を経て、更に北西奥地に向かうノロエステ線沿線は日本人移民の一大集中地域だった。ノロエステ地域では日本人移民増加により、多くの日本人会が生まれた。1933年時点で、アラサツバ市域に所在を置く日本人会が8団体あり、そのうちの1団体が1931年に組織されたカフェーズポリス植民地の日本人会である。

そのカフェーズポリス植民地日本人会で発行され、植民地内の日本人家庭に配布されていたのが会報誌『曙』であり、『曙第9巻第1号』は、野中（2018）で取り上げた資料のうち古い方の1939年発行の一点である。会報誌には、日本人会の活動や農業に関する話題、児童の日本語作文や会員の文芸作品などが掲載され、様々な記述からカフェーズポリス植民地内の生活や日本語継承の実態についての情報が確認できる。

本稿の翻刻対象となっている『曙第9巻第1号』は、第2次世界大戦前にブラジルで発行された日本語資料であり、ブラジルの戦前の日本人植民地の実態が記述されている移民資料は大変貴重である。日本人のブラジル移民に関係する戦前の文字資料は、(1) ブラジルのナショナリスチックな政策に端を発した1930年代の外国語出版物禁止令発布と第二次世界大戦開戦後の日伯国交断絶により敵性国語とされた日本語教科書や刊行物の摘発・破棄により数多くの日本語資料が処分されたこと、(2) 前山（2001：203）が「あらゆる文書・記録・古雑誌のたぐいは、日本語の読めない二、三世の代になると、くず屋に回されてしまう。」と指摘するように、親世代の遺品として受け継がれたものの、日本語が読めず内容を解さない次世代によって廃棄処分されてしまうこと、の二つの理由により現存する資料そのものが少ない。

移民の高齢化による記憶資料や記録資料の損失・消滅や、日本語継承の断絶による理解できない資料の破棄により、移民の記憶・記録は急速な消失の危機に晒されている。現存資料は大変貴重であり、その資料を翻刻・保存することは日系人コミュニティのみならず、日本とブラジル両国間にとっての文化遺産を守ることを意味する。本稿の翻刻はそのための基礎的作業としての意味を持ち、今後の移民研究や継承語教育研究といった諸分野における両国の教育・研究に寄与する可能性を持つため、非常に重要であると考えられる。

本稿資料は全て手書きであり、複数の担当者によって書かれた様子が見られ、異なる字形が混在していた。また、漢字の旧字体や略字体、カタカナ・ひらがな使用の表記法等に統一が見

られないので本稿では凡例に従って統一し、翻刻作業を行なった。

凡例

- ① 目次の項目毎に、文書が終わり次に新しい内容の文書が始まる時は一行あけた。
- ② 改行、文頭の字下げ、語彙間の字空けに関しては、原稿通りに従った。
- ③ 表紙、裏表紙、イラスト、囲み線の内容はそれぞれ「 」で記述し、その旨を（表紙）などのように右傍に注記した。
- ④ 旧字・異体字は基本的に新字体を用いた。
例：會→会 處→処 輯→集 藝→芸 學→学
- ⑤ 歴史的仮名遣い、変体仮名は原則として現代仮名遣いに改めた。
例：ゐ→い せう→しょう なほ→なお やう→よう へ→え（助詞ではない場合）
- ⑥ 名前、地名などの固有名詞、また、言語表現に関わる俳句・短歌・詩・児童作文は原文の字体を尊重し、原文ママとした。
- ⑦ 表記統一がなされていない箇所や誤字もそのまま原文通りに表記している。
例：カフェーゾポリス・カフェゾポリス ミリョ・ミイリョ
- ⑧ ポルトガル語表記、カタカナによるポルトガル語表記はすべて原文ママとした。
ルビは<>内で囲み、本文中に入力した。
- ⑨ 読点「、」、並列点「・」、句点「。」、繰り返し符号「〳」は原文ママとした。
- ⑩ 踊り字は、漢字は「々」を原文ママ、一字の「々」と二字以上の「く」は文字の繰り返しに書き換えた。
- ⑪ 原書の判読できない箇所、解読不明な文字は、その字数に相当する□を記した。
- ⑫ 内容理解の一助となるよう、一部に注を加え、文末に解説した。

『曙第9巻第1号』

「曙新春号第九巻第一号」（表紙）「風車、家、野原、池、木々、雲」（イラスト）

第九巻目次第一版	「山、桜の花」（イラスト）	
巻頭言	蘭水	一
己卯元旦口占	西岡好隆	二
新春を迎えて非常時に処す。	石橋初雄	三
断片	安平盛登	六
農家に欲しいメタンガス装置		九
発音によるユーモア		十二
農業 智利硝石		十五
棉作地を見て	Y.K 生	十八
学校日誌		二〇
会報日本人会		二三
会報本年度決算集		二五
会報青年会		二七

在留申告書 ¹ 受取書発表		二九
展望台	編集部	三〇
俳句		三二
短歌		三三
詩「闘」	中村政之	三四
児童作品	小学校生徒	三五
編集後記		三九

- 「謹賀新年 昭和拾四年元旦 カフェーゾポリス日本人会」(囲み線)
「謹賀新年 昭和拾四年元旦 カフェーゾポリス青年会」(囲み線)
「謹賀新年 昭和十四年一月元旦 カフェーゾポリス小学校父兄会」(囲み線)
「賀正 昭和十四年一月元旦 カフェーゾポリス植民地農産加工組合」(囲み線)
「賀正 カフェーゾポリス処女会²」(囲み線)
「朝陽映島 皇紀二千五百九十九年 一月元旦 カフェーゾポリス青年会 文芸部」(囲み線)

巻頭言 蘭水

多事多難の十三年は重苦しい緊張に暮れて、十四年の曙光今ぞ訪れる。

世界は大戦前の極度の不安にかられ、呑むか然らずんば呑まれるかの危地に喘ぐ。

かかる時、祖国日本は聖戦早くも一年有来、東亜新生の洪業に一路驀進した。四億の蒼生、王道楽土を謳歌し、皇恩に治するも又遠からざるべし。

翻って、当植民地の現状や如何？曰く教育問題、曰く、何と、重大問題山積す。この難問打開の鍵はどこにありや「前進」只これあるのみ。全植民者打って一丸となり、次の玉となって行く時、又何をか恐れんや。

「豈余を妨ぐるアルプス在らんや」と馬をアルプの峻嶺に進めた大奈翁の意気と熱こそ、そのまま、今日の我等の態度でなからねばならぬ。

年頭、あえて、全植民者の自覚と奮起を促して巻頭言とする。

己卯元旦口占 西岡好隆

新天新地自雄渾 動々生々萬象鮮 向上伸長真面目 新希新望湧如泉

私の念願 光明語録

人の偉大なるは人それ自身の本質による。金の良質なるは金それ自身の本質による。金は鉱石を外から磨いても純金となるのではなく、その本質を抽出するところに純金が顕現するのである。人間の教育もかくの如く、人間を外から磨くよりも、その本質を内より抽出することによって完成するのである。

しかし人は金よりもなお偉大なるものである。金は自然に放任する時は自ら内よりその純分を析出しないけれども、人は生命であるから本当に自然に放任する時、栗の実が毬を破って出づるが如く、自らその本質の善さを呈露するのである。

人の偉大なるは縛られて善くなるのではない。「本当の自然に任かす時内在無限の善さが、内在無限の能力が、内在無限の知恵が内より呈露して発現するのである。

しかし「本当の自然に任かす」とは何であるか。それは唯の放任ではない。大生命を知り大生

命に任かせるのである。唯の放任は、自然に任かされたように見えていてその実は今までの「悪しき惰力」に縛らせている場合が多いのである。

悪しき惰力に縛らせずして人それ自身に宿るところの大自然を呼び出して、それに任せて教育するが我等の生命教育である。人それ自身に宿るところの大自然とは何であるか。これこそ我等に内在する神性であり仏性である。この内在の神仏を呼び出すは言葉の力により文章の力による。

我等の教育の本質と方法とを万人に宣べ伝えて一挙にして全人類を光明化し地上に一人の劣等児童なく、虚弱児童なく家庭争議なく一切の歪める思想家なく、神そのものの如き人間ばかりを地上に創造したいのが私の念願である。

新春を迎えて非常時に処す 石橋初雄

地球は太陽の輪線を一回転して年新たたまつた。毎年の事ではあるが我々凡俗にも“今年こそは”という緊張感を正月だけは自覚する。翻って見るに一九三八年度は、超非常時下において、我が大和民族に有史以来かつて無い神の試練を受けた。

永らく白人専横に阻ばまれていた偉大なる国民力は、大陸進出に全大和民族の血潮は躍動しせきを切った水の如くに奔流しつつあり、ロボット抗日政権実は英米仏ソ相手の力闘である。想うに、東亜に締出しを食った彼等の報復か在伯二十万同胞否世界に散在する我等同胞も同じであろう種々な形をもって圧迫の魔手を伸ばして来た。わけて当国にては教育令の如き我等の二世に祖国語教育を禁じた。我等が子々孫々に伝うべきは、広大なる地積でもなければ、幾万コントスの金でもない。我等の血潮と共に伝うべき世界に類例なき日本精神であらねばならぬ。然るに未だ幼芽なるに摘み取らんとするは果して誰ぞ？・・・

その精神を伝うべきは学問に待つ他無し。学問無くして何れの時代に文化をもたらしたるや。森羅万象ことごとく無限を慕うて止まぬ。まして言わんや日出の国三千年の歴史に未だかつて何れの角度から見ても有限を味わった事なし。然るに今我等にはその二世の教育に有限を提示された。咄々百貫の鉄槌は我等の頭上に打ち下ろされた。かかる時我等はこの重圧に凹んで良いだろうか、否圧迫の度合が強ければ強い程翻然と民族意識に目覚める度合が強くなる。打たれた個所が凹まないでこぶが出来ると大和民族は如何なる天災地変にも凹んだ事の無い民族たるを自覚する事だ。

人既に帰亜論を叫ぶあり。止まれ！そんな弱い気でどうする。炎暑厳寒の候大陸に進撃する皇軍の労苦国家の礎石に突って死んだ英霊、四面孤立に銃後の祖国を守る人々に相済まぬ。我等は徒らに軽挙妄動して祖国の大陸における行動を妨げてはならぬ。国策の有無は知らず、補助まで受けて渡伯した我々、与えられた持ち場だ。如何なる難関に逢着するとも敢然これに善処せねばならぬ。これが我等の唯一の報国道ならぬ。

今次の教育令たるや我等一世には圧迫を感じれど二世には感じないだろう。それはブラジル国民たる彼等に、当国の義務たる初等教育を施すに至っては当然であるからである。

難解の日本語を幼なき児童に強いるより、法規の示す通り当国の義務を果して然る後、知識欲の旺盛なる年齢に達した時の方が効果的だろうか、と言うて一日もゆるがせには出来ぬ。

中途半端にならざる様父兄によりてよろしく善処しなければならぬと信ずる。

又人曰く、これから地権並びに団体等にも弾圧が来るだろうと、然りそれは何れ来るべきものが来る迄で、今から悲観するに及ばぬ。当国の国粹主義運動も一時的のものならぬ。

何故なれば、民主国家が全体主義国家と一律には行く筈はなく、まして言わんや、当国民は独

系伊系日系種々雑多である。

外国人弾圧は爆弾を抱いて火を弄ぶ様なものだろう。この際我等は事態を静観して兎角誤解されている日本及び日本人とは如何なるものであるかを彼等に認識さすべく努力し、そして徐々に親しましめ明日の時代を率いて行くこそ最も緊要ではないだろうか。宇宙は地上の人類の如何なる問題にもこだわらず新しく皇紀二千五百九十九回目の回転を始めた。

断片 安平盛登

帰朝せられた沢田大使³が最後の聖州訪問の時残された。

「金を持ってブラジル人と親しみなさい」という言葉は、ナショナリズムの嵐の真只中の緊張した重々しい空気の中に明朗なそして澁刺とした希望の湧然として来るのを感じます。流石に名外交官だけあって、うがった言葉であります。そうです軍備なきところに外交なく国力の充実なくして進展膨張はありません。これを在伯同胞の立場に当てはめる時、我々の経済力充実こそ無言の外交官であります。排日も排外的取締政策も自ら通ずる道があるでしょう。

xx xx xx

何ものか誇り得るもの。それは各々一人一人が持ち度きもの。持たなければならぬ。去る学芸会催しの児童劇、作品展においてこの片鱗が知らず知らずに成長しつつあるのを感じました。そうし明日からの邦語学校の閉鎖を思い出して暗然となりました。我々二世から、この言葉と文字の習得の機会を奪わんとしています。されどこの機会を奪われるともこの伸びんとしつつある何ものかを奪う事は出来ません。我々の文字と言語の習得機会は、あるいは家庭まで追い詰められるかも知れないが、こうした場合私達に教育教育と言って詰込み的文字の教育よりも、まずこの成長しつつあるものを保護し伸ばしつつ誘導すれば日語伯語教育も児自身の目覚めにより、より能率的になるのではないのでしょうか。

xx xx xx

「ハタ、タコ、コマ」学校の門をくぐって初めてぶつかる文字、これは諸氏の中にも思い出を持たれる方が大部分であると信じてますが、改正された読本の第一頁は「サイタサイタ、サクラガ、サイタ」⁴何とリズムカルな表現でしょう。「ハタ、タコ、コマ」時代の読本と格段な相違があります。一は仕事に疲れたお父さんが、ゲンコを喰わせつつカンテラの下で教え込んでいる殺風景さを思わせ、一はお母さんが子守唄を歌って夢の国に導いている和やかさを思わせませぬ。

学校閉鎖後の巡回教授はどの観点から見ても一層困難さを思わせるが、これをより効果的ならしむる為の、我等はあらゆる機会において児童の魂を呼び覚ます事に勉めなければなりません。父兄よ教育にあせるなかれ。一刻も止まるなかれ。如何なる圧迫を受けるとも屈するなかれ。地上いづれの地点にあるとも「オヒサマアカイ、アサヒガアカイ」⁵と魂から魂を呼びさまさなければなりません。

xx xx xx

衣食住の中で衣と住は如何なる不自由も忍ぶことが出来るが食の脅威程社会の国家の動揺を与えるものはないでしょう。

かって欧州大戦の時独潜水艦の航路の攪乱の為、英国内に食糧品のストックが余すところ僅か七日間となった時、ものに動ぜぬ宰相国民も色を失ったと言う事であります。ドイツの敗地も結局食の脅威でありました。英国は輸入超過の国であり、昭和六年度の入超は四十億六千万円、最近十年間平均三十億を下らない。(日本の輸出入総計を合して五十五億円、出超五千万円)こ

の英国の入超過の一大原因は、八十%を海外に仰ぐ食糧品の輸入であります。過ぎるチェッコ問題調停に首相チェンバレンの活躍を全隅の支持をなしたるもまむべなるかな、です。頭を巡らして我が祖国日本の現状を観る時如何に心強さを感じる事でしょう。あの小面積の国土から食糧品のほとんどを贈っていると言っても過言ではない。むしろ主食品の米などは、豊作の年は過利でさえあるのです。今事変に今後の重大難局に食糧の安全感程無我の力を与えるものはないでしょう。彼の不利な地形、ゼークト将軍指導になる完璧の防塞、到底西洋人的常識では破る事は出来ない場所を朝に一盛を抜き夕に一域を陥す皇軍の精神力を与える無音の力、優秀なる精神的要素を、人的要素を、経済的要素を産む国土日本、燦然たる明日の芳醇なる文化を育まんとする国土、明日の繁栄を併せて、幸なるかな国土日本！！

農家に欲しいメタンガス装置（燈火や料理に使える）

メタンガスは厩肥蚕口無落葉、その他蔬菜の残物などを水中で腐らせ、その際発生するガスを貯蔵して使用するのですから寒い間は余り発生しませんが、暑くなれば十分に発生して燈火に利用され又相当熟度も高いからガスコンロを使用して湯を沸かしたり料理も出来て□様便利です。大体の装置はガス発生材料の蔬菜くず、落葉などを入れるコンクリートのタンクと材料が浮き上がるのを防ぐ木の蓋と、ガスを溜めるトタンの蓋箱と、ガスを外に導く鉛管とで出来ています。コンクリートのタンクの深さは二メートル半、三メートル四方位もあれば相当多量のガスが発生します。

タンクの四壁には底から二メートルのところから巾三十センチの柵を重平に矢張りコンクリートで作り、その中央の一つずつ、つまり四つの直径十五乃至二十センチの土管を垂直に挿込みます。これは蔬菜くず等の材料をタンク内に補給する口です。コンクリートが固ったら水が漏らぬ様に入念にモルタルで上塗りを行います。木蓋は、長さ三メートルで十センチ角のもの二本を台にして厚さ二センチ巾八センチ長さ二メートル半の板を八センチおきに釘を打ちつけます。次に木蓋を浮き上げぬ為に、長い鉄のボードでコンクリートの柵に固定します。トタン製の箱蓋は二メートル半角の深さ三十センチの箱です。これを逆さまにして木蓋の上の中央に載せます。

そして動かぬ様に四隅をタンクの四隅へスプリングで繋ぎます。なお箱蓋にはガスを導く鉛管をつけ又ガスを押出す為に、石を適當の重さに載せます。そこで雨が入らぬ様に屋根をこしらえれば出来上ります。

コンクリートのタンクが出来上った時、その中へガス発生材料として約二メートル程厩肥や落葉を積み入れます。そして全部の装置が終わったらタンク一杯に水を入れます。

タンク内で発生したガスは木蓋の隙間から通って箱蓋の中に溜り、これを押し上げようとしませんが石の重みで出来ないで導管の方へ出て行きます。水を満すと翌日からでも沢山のガスが発生しますが、このガスは点火しません。火のつく様になるには、時候にもよりますが一、二ヶ月を経て内容が充分腐敗する必要があるのです。

三ヶ月位すると大そう明るくなります。完全な点火はまず一年というところです。材料の補給は設備してから一年位はあまり入れなくてもよろしいが、その後は三日目、五日目とかに少しずつ野菜くずなり腐敗し易いものは何でも加えて行きます。

こうしておけば何年でも使えますからこの装置が完成すれば石油燃料の経済にもなり文化的生活を営む事が出来るわけでありませう。

×× ×× ××

農は人間の職業中最も尊く最も有益、最も、健全なものである一ワシントン
天つ日の暑さ寒さを農ひく暖こそ秋の実を結ぶなれ 二宮尊徳⁶

発音によるユーモア 蘭火坊

日本語でも、落語などでは発音による笑いがあるが、これとは異った意味で伯語にも発音により笑話というよりもユーモアがある。御承知の如く伯語の言葉を綴るに新、旧二通り⁷あり即ち新綴字法 *Ortografia fonetica* <オルトグラフィア フォネーチカ>あるいは *Simplificada* <スインプリフィカーダ>と言って発音通りに綴る法、旧綴字法 *Ortografia etimologica* <エチモロージカ>あるいは *antiga* <アンチーガ>と言って言語学的に発音しない文字をも綴る法である。新の方は現在一部の使用され、一般は未だ旧である。例えば我々が日常使用の伯語プロントは旧綴では *prompto* と書き *t* の前の *p* を発音せず新綴では *pronto* と発音通り *t* の前の *p* を除き *m* を *n* に代える。

これらの新旧が如何に変化するかは私の本日述べんとするところではなく他日として、今日はこの発音と綴によるユーモアを一席。

ある学校に、*Ignacio Baptista Consepção* <イナースィオ バチスタ コンセッソン>という名の児童があったが、新任の先生は故意か次の如く綴字全部を発音した。即ち、イグナースィオ、バプチスタ、コンセプソンと。この児童は、からかわれたと思ひやくにさはり、又ユーモリストだったので、その返るにプロント、セニョールというべきところ、先生に対するしかえしのつもりで *p* を発音しプロンプト、セニョールとやった。

このプロントでもう一つ。やはり先生がある児童を呼んだ際、この児童はプロンプトと返答した。先生はその発音が間違いであると注意したところ、この児童は *Não snr assim está escripto* <ノン セニョール アシン エスター エスクリプト>と言った。書いての伯語はエスクリットでやはり *t* の前の *p* は発音しないのであるが、プロンプトの弁解にもう一ぺん *p* を発音してエスクリットとしゃれたものである。

伯語でキザな人をペダンテと言う。例の綴の *t* の前にある *c* は大たい発音しないもので例えば *fructa* <フルッタ>、*acto* <アット>など。しかしペダンテはクを発音してペダンチズムを發揮する。そこで一席。

シネマを見に来た一紳士があった。彼はこのペダンテでシルクハットにステッキは勿論、白手袋を握ってすましていた。しかし彼が来た時は既にシネマは始まっていた。そこで彼はボーイを呼び次の様に聞いた。 *Ha tempo que começou acto?* <ア テンポ ケ コメソー アクト> (始まってから大ぶなりますか) このボーイも面白い男で、この紳士のペダンテぶりが気に入らないところへもって来て(あるいは紳士が彼に一ミルもくれなかったからかどうか知らない)アットの発音をアクトと *C* を発音したのが尚このボーイを皮肉らせた。そこでボーイ氏も、いとも丁重にすまし込み(大方目とまゆ毛の間を開いて)言った。 *Não snr cavalheiro, apenas tres minuctos.* <ノン セニョール カバリエイロ アペナス トレス ミヌクトス> (いいえ貴方、わずか三分しか経ちません) 三分の分は *minúto* <ミニウト>であってミニクトと *C* を綴もせねば発音もしないのであるが、紳士のアクトのクに対応すべく、無理にもミニウトに *C* を入れミニクトとしたのである。

マンジョカ工場よ働いて呉れ、
新時代の流に乗ったお前は

我故郷カフェーゾポリスの生命だ

「建物3棟内1棟は煙突から煙」(イラスト)

農業欄 智利硝石

智利硝石は、智利、ペルー、ボリビア、北米の地に原鉱を産するが、ことに智利国より、産出するもの多量にして、良質なり。智利硝石の原鉱は、これをカリシエと称しているが、その成分は智利硝石百キロの内、窒素成分十五キロ、その他にソーダの成分あり。水分も二キロ位含まれ、土砂も相当含まれている。

普通火薬の原料とする硝石とこの智利硝石とは違っている。火薬の品は硝酸カリと言うもので、即ち、硝酸とカリとの化合物である。この智利硝石は硝酸ソーダ即ち硝酸とソーダの化合物である。硝酸成分は両者とも含まれているがそれで、化合する相手は一方はカリ、他方はソーダと言う違いがある。

故に智利硝石と名づけて、普通の硝石と区別されてある。

よく地方の人々でこの区別される方があるので、ここに説明しておく次第である。

智利硝石の利点と欠点

- (一) これは速効性の肥料であるから、成長期の短い作物に用うるがよい。
- (二) 外界の事情例えば、霜害等のため、生育悪変し、停止した場合等にその作物を再び、勢よく成長させる場合等に卓効あり。
- (三) 土壌中の湿気を保たせる性あり、これを利用して、よく、旱害程度を減少した例は少なくない。

以上が利点と言うべきであるが欠点は次の如くである。

- (一) 速効性肥料だから、もし、成長期の長い作物に対しては、一回にやらずに数回に分施する必要がある。
- (二) 溶解性大であって、土中に吸収保持されないから、多雨地方に基肥として、使うことは不得策である。むしろ、作物が充分成長して、土中の養分を十分に吸い取る頃になって、これを補肥として、与えることが得策であろう。

智利硝石使用上の注意

一、智利硝石を使う一番適当な時期は、作物の勢盛んに成長しつつある頃がよい。冬期あるいは、作物の生育緩慢な時には、これを施すも、左程の効めなし。

二、各種の肥料中効めが早いから、芽出し肥又は追肥として施すがよい。

三、智利硝石は雨や土の中の水分に溶け、畑に行き亙り、地中の深いところにある根に養分を与えるが土に吸収され難いから、一度に多量を施すより、数回に分けて施すがよい。施し方は二通りある。まず畑が湿っている時に、智利硝石を細かく砕いて、三、四位の乾いた土か砂を混ぜて、施すこと、畑が乾き過ぎた場合は、智利硝石一キロを、七〇ないし百リットルの水に混ぜてやる。苗物の場合は一層薄めてやる方がよい。

四、智利硝石を連用すると、土地を荒し、畑を痩せさせる恐れがないかと問われるが、これは硫酸のように酸性を残す事なく、むしろこれを消す働きがあるから年々続けて、使用しても、土質のための障りはない。もっとも化学肥料というものは、年々用いても、堆肥、緑肥の如き、容積の大きい、そうして、土壌を軟らかにする肥料を充分に施さないと、土中の有キ物がなくなり、遂に土地は固くなる故に智利硝石を連年使う場合は、厩肥、堆肥の如きものを併用する必要がある。即ち、智利硝石を使用する場合に他の有機質の肥料は、地方を維持する目的があ

り、この有機質肥料を種子を蒔く時にその前に基肥として使うか又は芽が出るに先立ちて施せば、直ぐ効くと言う性質がある故に智利硝石は追肥として使用するがよい方法と考えられる。智利硝石に混ぜ物が有るか否かを判別する方法。

- 一、智利硝石は四角形の結晶だから他の混り物があれば、肉眼でも容易に見別ける事が出来る。
- 二、水に溶かせば暫くすると、殆ど全部溶解する。
- 三、少量の智利硝石を金物の容器に入れて火の上において、熱すれば、良くとける。次にその中に藁屑を入れると燃焼して、跡に灰白色ソーダの塊りが出来るので鑑定される。
- 四、智利硝石の色は、原鉱石の天然の色によって、製品にも白鼠、黄、淡褐色等の色がつくので、これは原料の光原によるので、成分にも肥効にも関係はないはずである。

感想 棉作地を見て Y.K 生

足下に咲く花は、気付かず、崖上に咲く花のみが第一に眼に映出、これを採らんとし、高きに憧れ、美しくしき夢を追うのは、人間としての常であり、又人情でもあろう。

日々新聞紙、広告欄を賑わしているパウリスタ線マリリヤ地方の棉作地帯を過る視察した感想を述べて見たい。

来れ、棉の都、然して乗れ、オーロ・ブランコ⁸の波(域当三百、四百アローバ⁹)。こうした文句である。こうした広告に逆い、一攫千金を夢見て、集い来る棉作者の如何に多い事であろうか。同地方は、これら無産棉作者群で溢れている。そうして、移転して行く家族は、ノロ線、モヂ線が最も多いそうである。

これらの借地農、歩合作者は、最も不利な契約条件の下に呻吟しているのである。まず同地方の域当りの借地代は三百五十銭を最下に五百あるいは六百銭の所もあると聞いて、びっくりした。

歩合作者は地主側より、僅かの生活費の援助を受けて、四口、あるいはアルケール¹⁰当り、六〇アローバーの棉を地主に納入せねばならぬ。

生活費には、有利を附されてある故、一攫千金を夢見たこれら棉作者達は翌年の収穫期が終わった次は儚い夢よりさめて、驚く頃には借財を儲けている有様である。

多くの棉作者は動くに動けず、毎年毎年この有様を続けている。□□なき大波に首だけ出して、漂流している如くである。大波が来れば波下に苦しみ、僅かの幸運児が岸に打ち上げられて、ここを逃げ出す。

この地方で、最も利益を得ている者は地主階級である。濡れ手で粟を掴むという事は全く彼らの事だと思った。

無産者は最後の血の一滴までも地主に搾取されるとある人が語っていた。全くこの不当の契約条件に呻吟する人々を見た時、同情せざるを得なかったが、彼等にアラサツバ地方の棉作地の借地費の安い事を語っても本気にしないのだ。そんな馬鹿な事があるかこの調子だから手がつけられない。

僕はこれらの人々を哀れと思い、いつもアラサツバ地方の棉作者は幸福だと思った。

(蘭水片々録)

人々よ、金儲にあせるな。目前の利欲にのみ走る者は、決して金儲は出来ない。まず、金を儲けたかったら、人格を磨け。健全なる真髓に健全なる精神が宿る如く、財産も又人格円満なれば、自ら集るであろう。何処の世界にも一攫千金、濡れ手で粟式の金儲けは、ころがってはい

ない。健実にやっけて行くより方法はないことを知るべし。

学校日誌

十二月十八日、本年度第八回卒業生は、教育非常時に再会し、色々の意味において、意義深き最後の卒業式であった。卒業生は次の通り。

白石保江 杉功一朗 岩井弘 三隅登喜子 坂本志津男 岡山光恵
藤田千秋 黒田トシエ 織田清香 下田和七 種野親則

当日は式後かねて、計画中の児童学芸会を開催。植民者父兄も多数、出席されて、盛り沢山のプログラムも次々にすんで、近頃の愉快事であった。

尚又休憩時には、女子部の国防献金愛国枕を即売し、全部またたく間に売りつくして、品切れとなる有様、御買上の方々には、紙上にて、厚く御礼申し上げます。

今会計を発表いたします。

一、収入総額 二〇〇、〇〇〇¹¹

一、支出総額 一〇六、五〇〇

一、差引総益 九三、五〇〇

支出明細

一、パンノ代	六〇、〇〇〇	一、ホック及カヘテル	四、五〇〇
一、糸代	二七、〇〇〇	一、慰安会費	一五、〇〇〇
計	一〇六、五〇〇		

十二月十九日、折から開催中のバウル管¹²で小学児童作品展覧会を見学すべく、全生徒に通知したが出席者意外に少なく、折角の好機を逸すると思ひ、残念に思つた。本校十二時出発、アラサツバ学園に向ひ、児童達の苦心の傑作を觀賞し、益するところ多く次の部屋に入ると、特別出品として、母国児童の書方、図画及朝野の名士の記念品が陳列されてあつた。特に国士頭山満翁の血書、文壇諸名家の肉筆の書、皇室御下賜の、御菓子、備前宗光の小刀等珍品揃ひであつた。

一同大いに見聞をひろめ、帰途子供等の希望にまかせ、ピシーナに水泳に行き、二時間ばかり、縦横に泳ぎまくって、汗を流し、無事五時過ぎ帰校。

十二月二十日、本日は愛国枕を作つた女生徒の慰安会をかねて、ささやかな□□打ちとけた茶話会を開いた。

特に炊事係には、白石、三隅の二嬢、特別支援として、早くより手伝ひに來り、定刻十二時には、三つのメーザにところせまきまでご馳走が盛られ、一同腹づつみを打つて喜び、レコードのメロディーにききほれたり、お特製の唱歌をうたつたり、嬉々として、歡をつくした。

後記念撮影をなし、バスケット・ボール、デットボール¹³等をなし、五時過ぎ散会した。当日の懸賞福引きをお笑い¹⁴までにかいて記念としよう。

一、おしゃべりな友の信用 (一日ずつうすくなる)	カレンダー・・・三隅
一、金語楼の落語 (面白くてたまらぬ)	漫画の本・・・白石
一、短距離選手 (早くかける)	けずりかけのラーピス(織田)
一、仲のよい友達同志 (くつついてはなれぬ)	あめ・・・黒田ト
一、勉強の大きらいな少女 (よく落ちる)	石けん・・・岡山光
一、女学校入学希望者 (上るのが楽しみ)	かるた...屋宮
一、晩秋の銀杏 (葉が黄)	絵葉書・・・天野

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 一、風邪をひいたお文係 (ゴホンゴホン) | 少女倶楽部・・・岡山文 |
| 一、お汽車の称ある村社選手 (よくかける) | ペーナ・・・中島 |
| 一、優等生と少女倶楽部 (切ってもきれぬ) | 古カニベッチ・・・藤原朝 |
| 一、チブス患者 (よくうつる) | 鏡・・・屋比久 |
| 一、来年の運勢は (まんがよい) | マンガ・・・藤原信 |
| 一、紙のこ (神の子) | サンチーニア・・・銘川マリヤ |
| 一、氷のてんぷら (あげられぬ) | 空くじ・・・安平盛 |

ここに作業に従った少女方の名前を列記いたします。

- | | | |
|----------|-----|--------|
| 五年生 白石保江 | 〃 | 屋宮文子 |
| 〃 三隅登喜子 | 三年生 | 内間春子 |
| 〃 岡山光恵 | 〃 | 荒木良子 |
| 〃 織田清香 | 〃 | 天野光代 |
| 〃 黒田トシエ | 〃 | 屋比久千代子 |
| 四年生 中島諒子 | 二年生 | 銘川マリヤ |
| 〃 岡山文恵 | 〃 | 奥間竹子 |
| 〃 藤原信子 | 〃 | 原和子 |

会報 日本人会々報

昭和十三年度

十二月十五日、役員会開催、出席者九名

定刻ニ入り、会長、開会ヲ宣シ、続イテ、今後ノ邦語教授法ニ関シ、如何ナル方法ヲ取ルベキカトイフ教育問題ニツイテ、懇談的ニ意見ヲ戦シ、結局巡回教授トイフ形式ガ最適ナリトイフ事ニ一致、年末ナレバ、議事ノ決定ハ差控え、大体ノ教育方針ヲ討議シテ明年度新役員ニ附議スル事ニ決定。

十二月二十五日、定期総会開催、出席者七十七名

定刻三隅会長ヨリ、開会挨拶アリ、次デ各部ノ報告アリ、終ッテ明年度役員選挙ニ移リ、結果左ノ通り。

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-------|
| 会長 | 三隅忠雄 | 常任幹事 | 安平盛登 |
| 副会長 | 中村栄 | | |
| 会計 | 織田重喜 | 第一区々長 | 伊波盛永 |
| 特別会計 | 杉利助 (産業部員兼) | | |
| 学務部長 | 西岡好隆 | 第二区々長 | 藤岡政二郎 |
| 外交部長 | 当間嗣喜 (産業部員兼) | | |
| 産業部長 | 白石光雄 | 第三区々長 | 稲田貢 |
| 衛生部長 | 岡山新一 (産業部員兼) | | |
| 第四区々長 | 登伊佐美 | 第七区々長 | 銘川亀 |
| 第五区々長 | 小方金之助 | 第八区々長 | 平崎守 |
| 第六区々長 | 藤原口太 | | |
| 産業部員 | | | |
| 第四区 | 山内正夫 | 第五区 | 坂本常雄 |

第六区 佐藤兵八 第八区 古庄久
第七区 赤嶺徳口

「警句

青年にして不満なき時は怠惰となる。

知恵があつて信念の無い者は刃だけで柄のない斧に等し。」(囲み線)

「花」(イラスト)

昭和十四年度

一月四日、定刻ヨリ一時間遅レテ開催。出席二十一名、欠員一名。

協議事項(決議)

- 一、記皇二千六百年祭奉祝寄附ニ関シテハ、各区ニオイテ希望者ヲ募ル事、
- 二、教育問題ニ入ル前ニ学校敷地ト会館敷地ニ関シ、質問アリ。学校敷地ハ地主アルメイダ未亡人ノ寄附ナルモ、後ヨリ拡張セル敷地ハ久米氏ヨリ、購入セルモノニ付キ、後日ノ為ニ境界線ノ設定ヲナシオク様、学校ニ依頼スル事ニ決ス。
- 三、巡回教授ヲ実施スルニツキ、教育的効果ヲ挙げ、教授時間ヲ延長スル為ニ指導員ニ乗馬用馬具ヲ提供スル事ニ決定ス。
- 四、巡回教授所ヲ三班ニ分チ、第一班ヲ一區、七區、二區ノ一部(学校以西南)、第二班ヲ三區、六區、二區ノ残部(学校ヨリ以東北)第三班ヲ四區、五區、八區トシ、各班ノ学務委員ハソノ班ヨリ選任スル事トシ、区長ハ来ル八日マデニ本年度就学児童人員ヲ報告スル事。
- 五、予算審議ニ移ルニ先ダチ、中村氏ヨリ、産業部員ハ産業ニ関スル事項ニシテ、会長及部員ノ必要ヲ認メタル場合ノミ、コレヲ集スノ提議ニ関シ、全会員コレヲ諒トシ、他ノ部員モコレニ準ズ、但シ部員モ日会役員タル事従前ト変リナキ事ヲ附記ス

本年度決算案

- 一、収入総計 拾コントス二百七十千レース也¹¹
- 二、支出総計 拾コントス二百七十千レース也

支出内訳

一、専務費	五八〇、〇〇〇	(チ) 雑費	三〇〇、〇〇〇
(イ) 幹事手当	一〇〇、〇〇〇	三、衛生費	三七〇、〇〇〇
(ロ) 通信費	二〇、〇〇〇	(イ) 講話会費	一〇〇、〇〇〇
(ハ) 出張費	三〇〇、〇〇〇	(ロ) 防疫費	一〇〇、〇〇〇
(ニ) 集会費	一〇〇、〇〇〇	(ハ) 同仁会費	二〇、〇〇〇
(ホ) 消耗費	四〇、〇〇〇	(ニ) 部員手当	一五〇、〇〇〇
(ヘ) 雑費	二〇、〇〇〇	四、産業費	一七〇、〇〇〇
二、教育費	七、三〇〇、〇〇〇	(イ) 奨励費	一五〇、〇〇〇
(イ) 俸給費	五、七五〇、〇〇〇	(ロ) 雑費	二〇、〇〇〇
(ロ) 備品費	一〇〇、〇〇〇	五、弔慰金	一五〇、〇〇〇
(ハ) 消耗費	一五〇、〇〇〇	六、補助金	六五〇、〇〇〇
(ニ) 奨学費	一五〇、〇〇〇	(イ) 曙誌補助	三〇〇、〇〇〇
(ホ) 旅費	五〇、〇〇〇	(ロ) 道路修理	二五〇、〇〇〇
(ヘ) 設備費	三〇〇、〇〇〇	(ハ) 処女会補助	一〇〇、〇〇〇
(ト) 臨時費	五〇〇、〇〇〇	七、積立金(基本)	五〇、〇〇〇

八、予備金 一、〇〇〇、〇〇〇

以上

収入之部

会費の負担は十六級に分ち各級右の割合の点数に分ち各一点につき八百四十レース、四月及び七月に納入するものとす。

一級	一五〇点	十級	三〇点
二〃	二二〇点	十一〃	二五点
三〃	一〇〇点	十二〃	二〇点
四〃	九〇点	十三〃	十五点
五〃	八〇点	十四〃	十点
六〃	七〇点	十五〃	七点
七〃	六〇点	十六〃	五点
八〃	五〇点		以上
九〃	四〇点		

青年会々報

十二月三日

本会々員高見久嘉君の結婚式挙行に際し本会へ招待状有り、澤田会長本会代表として例席せり。

十二月四日

汎アラサツバ青年連盟結成相談会へ澤田、中村、種野の諸氏出たせり、松原氏は色々の都合により代理を種野氏に任せり。

奉仕事業として小学校庭にあるバスケットボール場の修理を本会々員午前八時より出動し、道路修理を行なえり。出動員二五名。

全日 文芸部にては曙十二月号発行される。

十二月十一日

午後二時より下半期定期総会開催せり、会長開会を宣し、一同会歌合唱、続いて会長の過去一年を通じての感想をはさみ挨拶を述べ、会務報告は毎月曙誌上に発表している故報告は省略せり、次ぎに下半期の詳細にわたる会計報告有り、続いて事業部長より本年度の事業報告有り。松原会計の提案により会則変更に出席会員賛成なし、第三条第七条第九条第十条を変更す、会則変更終りて役員改選挙にうつる選挙を行なう前に役員選出方法につき協議しその結果今回は各役員共会員が選出する事となれり。

改選の結果左の如くである。

会長	松原正樹	次点	中村務
次点	中村務	文芸部長	松原静也
副会長	高見久嘉	次点	中村務
次点	中村 務	弁論部長	松原静也
会計	杉賢市	次点	高見久嘉
運動部長	種野親晴	次点	中村務
次点	井上藤吉	事業部長	中村務
図書部長	井上藤吉	次点	登春光

文芸部員は文芸部長いずれを推薦する事となり当日部員は決定せず。各区幹事は当日二区奥間政忠、白石安光、四区 登春光。他の区は当日決定せず

役員改選終了後澤田会長より汎アラサツバ青年連盟結成相談会の経過報告有り午後六時散会せり。

十二月十九日

午後九時役員会開催す。新役員若干名役員承認せずその件につき種々協議の結果再選する事決定し散会せり。

十二月二十五日

午後二時より臨時総会開催す。まず会長会開を宣し、過日役員会開催の当校の決定報告有り、再選を全会員に計ったが決定せず、やむ得ず本会顧問三隅氏及び名誉会員西岡氏にその解決を依頼せしに夕刻に解決出来ず散会せり。

昭和十四年一月一日

新年遥拝式に本会々員一同列席せり。

一月八日

午後二時より臨時総会開催せり。会長開会を宣し役員改選を行なう前に本会々員松原正樹氏一身上の都合により退会届を提出し来たり。当日やもう得ず退会を承認する事となれりし、次いで役員改選にうつり再選の結果左の如くである。

会長	澤田正	次点	高見久嘉
副会長	高見久嘉	次点	小方忠
会計	中村務	次点	井上藤吉
文芸部長	松原誠也	次点	中村務
運動部長	種野親晴	次点	屋嘉比康敬
弁論部長	三隅昇	次点	澤田正
図書部長	井上藤吉	次点	中村務
事業部長	登春光	次点	白石 安光

各区幹事屋比久孟正、二区奥間政忠、白石安光、四区登春光、五区坪根富士尾、七区野村富雄、三区、六区は幹事未定午後六時散会

昭和十四年度在留申告書及び徴集延期願受取書発表

本会にて在留申告書及び徴集延期願今年度は取まとめて受取りが来ました曙誌上をもって発表致します。

取扱 カフェーズポリス青年会

林田守	井上藤吉	〃 良文	大谷茂
荒木盛元	高見久嘉	〃 貞一	佐藤正一
林田豊	室山富雄	亀尾幸男	松原正樹
堀田益雄	栗本守	山内正夫	〃 静也
小方忠	佐々木厚	久米龍之介	三隅忠秀
安平盛登	林原鶴松	三隅龍雄	中村務
徳永政一	古庄久	登春光	澤田正
〃 光士	河野三郎	津田勝義	坪根富士尾
岩井英	下瀬宗次	屋宮輝彦	奥間政忠

清田政喜	屋比久孟興	大城平吉	又吉光貞
杵賢市	照屋清松	外間尹誠	比嘉正夫
奥原寛盛	屋嘉比康敬	〃 尹吉	種野親晴
赤嶺仁盛	江洲真珍	佐々本嗣仁	以上拾参名

展望台 編集部

- 一、国粹主義の弾圧により学校にての邦語教育は禁止された。されど邦語の必要なる事は万人同感であり今後の対策に第一世は近事でない頭痛の種であり。共に深慮と口重なる態度を以て二世教育に対する具体案を審議しつつあるとか。
- 一、そこで一般父兄も従前により今後の諸問題が数多関連するされど正しき理解の下に第二世の前途のために大いに努力奮起すべきは第一世の使命であり義務であろう。
- 一、そこで林先生は来る十八日より向一週間リンスにおいて開催される巡回教授の指導員の講習会に出席されると。
- 一、一月元旦。遥拝式後、処女会は総会を開催。新役員を左の通り決定した
- 会長 安平きみの嬢
副会長 杉春江嬢
- 各区幹事は第一区常間静子、第二区栄いね子、第三区黒田駒子、第五区岩井貞子諸嬢と決定。
- 一、去る一月四日午後八時より、ア市教育普及会第六支部主事上野氏が来植。今後の教育方針について約一時間半にわたり講演を行う。非常なる熱弁で聴く者をして多大な感銘を与えた。その熱で今後の教育非常時に対処して下さい。
- 一、第二区の澤田氏のご令弟は今度の日支事変に名誉の戦死を遂げられたので去る十二月二七日廣島県人会が主催となって盛大なる追悼法会を行った。
- 一、元日そうそう縁起でもない話
帰宅中の某氏途中までさしかかると三人組の黒人追はぎに出会い幸い現金に被害はなかったが所持品のカッパその他数点をはぎ取られた今後とも皆に御用心ありたし。
- 一、第二区奥間政正氏の御母堂は今年をもって七十三才の齡を迎えたため過日招待客六十名からなる盛大なフェスタを催した。真におめでたい限り。
- 一、雨はふるふる害虫はふえるお百姓口は呑気じゃない。
変更線バルパライゾ奥ではこの頃の雨にクリ口レーが発生葉をかけては流しかけては流して棉は坊主になっているげな

曙俳句『夏雲』一月集 文芸部選

- 天位…夏の雲陽陰斑に蟬時雨 晴村
- 地位…糸垂れし川面に映ゆる夏の雲 一水
- 人位…去年住みし空のあたりや夏の雲 夕顔

汗ふきてあほぐ大空夏の雲	耕南	夕立も過ぎて夏雲日に焼ける	耕南
夏雲の悠に走る午さがり	曙光	故郷の海辺恋しき夏の雲	耕兎
飛行機の高くを過ぎけり夏の雲	耕兎	遠雷の彼方に浮ぶ夏の雲	耕南
野良帰へる道で晴れたり夏の雲	夕顔	炎天に夏雲白し空青し	曙光
大影をうつして夏雲走りけり	耕兎	雨後の澄天白し夏の雲	曙光

深林を暗く覆ひし夏の雲	桔梗	夏雲や汗の肌着に集ふ虻	晴村
つかの間に湧きたる夏の雲黒と	〃	炎天に盛り上がり夏の雲	耕児
夏雲や一斉さそふミーリョの穂	清水	若人の意気滄溘と夏の雲	一水
蟬ありて梢は高々夏の雲	一水	夏雲を越へて飛行機過ぎ行きぬ	晴村
腹時計あほぐ日に口す夏の雲	夕顔	夏雲や身を焼くほどの暑さ哉	一水
夏雲やあへぎつ過ぎし牛の郡	一水	夏の雲覆ふと見えて 雨かな	夕顔

俳句大大募集!! 文芸部宛

二月課題「夕立」締切り 二月五日

短歌

雑詠 中村溪流

文字に書く詩の音調は歎びかかはた悲しみが憂の野を行く。
 野に立てば山脈はるか空にあり新なる草寸伸びにけり。
 水と水かすかにふれて一律のざめきを空に培ふ湖面。
 返逆の礫の如く鳥去りて後に少しく羽音や残りぬ。
 なべて世に超然たりや亭々とユーカーリ大樹空にさららう。
 大偉なる夏雲湧きて新たなる海の香運ぶ風や起りぬ。

雑詠 萬里夫

十年もひた働きに働けど今年の暮も生活苦しき。
 恵まれぬ過去去十年は吾家に神の下せし試練とぞ思ふ。
 十年の過去かえり見れば何一つ為し居らざりし吾は淋しき。
 苦しきを共に慰め励ましつ今日もひねもす鍬とりにけり。

雑詠 静香

吾が胸に安らか眠る姉が子は何夢見しか微笑みにけり。
 抱いたり負ふて見たりひねもすに母は花さし愛し初まじ。
 丸々と肥り子に乳含ませる姉のみ顔に幸あふれたり。

詩一篇 闘

「闘?・・・それは否定なんだよ。」
 地下より揺り上げて
 大地に鋭光を走らす
 立体圖の時代観は
 だが果して
 この無量数百万に
 「意志」が存在してゐたのだろうか
 一角のノロシが上れば
 白に
 赤に
 黒に
 三百六十四角の

各自は意識に頭脳が冴え
その民族所属の部所につく。
中村政之
血と呼ぶ言葉は
血と謂ふ意識から出る
おお血魂呼應する
果して現象は血か
紙面の上で
世界が移動し騒音が
静かに草煙と共に流れる。
伯国の室内に居て
平和だ
確に平和がある、
「平和?・・・これこそ否定なんだよ」
鳴々
文字に書く詩は
結局遊戯でしかあり得ないと
君は言ふか。

児童作文欄

△僕はミリヨである 五¹⁵、杉功一郎

今まで、ミイリヨの皮に包まれてゐた僕はもう皮をはがれて、土の中に植えられた。それから二三日たつと日がカンカンと照って今にも僕は焼死そうになったので僕はとても苦しかったが、其の日の夕方大粒の雨が降ってきたので僕は嬉しかった。今にも死にそうだったのが今は元通り元気を回復した。それから二三日するとやっと地上に芽を出した。僕があたりを見まはすと他の友だちも僕と同じやうに芽を出してゐた。僕はハッとした。他の友達もやっぱり同じやうに植えられたのだ。みんなも苦しかったろうと思った。

△こほろぎ 五¹⁵、白石保江

しづかな月夜にこほろぎが
コロコロコロと鳴いてゐた。
ゴヤバーの下で鳴いてゐた。
しづかな月夜にコホロギは
母さん探して鳴いてゐた
コロコロコロコロないてゐた
野越え、山越え村こえて
月夜の晩にころころと
母さんさがして鳴くのでせう。

△星 四¹⁵、中島諄子

窓から外をのぞいたら
空にはピカピカお星さま
キラキラ光る銀の星

空一面にひろがった
小さな星は森の上
大きな星は家の上
ピカピカピカと光ってた。

◆朝日 五¹⁵、三隅登喜子

朝日がのぼる大空に
平和な村に顔出して
起きれ起きれと呼ぶように
まあるいお顔はニコニコと
カラリと晴れた青空に
今日も楽しい空の旅
空では何が面白い
ひろいひろい大空で
平和な村を守ってる

◆お月さま 五¹⁵、織田清香

夕べの風のそよぐとき
まあるいまあるいお月さま
こちらを向いて笑ってる
でたでた月が十五夜が
空には涼しいとほり風
蟲も暗いと鳴きだした
さっと曇った黒雲に
やがて又出た十五夜さん
子供も庭でたひませう
あかるい月夜のテレイロで!!

◆日曜 二¹⁵、藤田秀哉

明日はうれしい日曜だ
僕も朝からあそびたい
朝早くおきてあそびたい
どこに行ってあそぼうか
バガスーに行ってペシつろうか
それとも川でおよがうか
何でも明日はうれしいな
朝からうんとあそんでやろ。
天気であればゐるゐがねエ。

感想文 ◇朝の景色 繪美子

東の空が明るくなりました。向ふの椰子の葉末から、キラキラと輝きながら、太陽は次第々々に昇って行きます。太陽の前を小鳥たちが羽毛を銀色に光らせて、喜びに満ちて横切り乍ら飛んで行きます。

今まで暗闇の中に包まれてスヤスヤと寝てゐた神羅萬象は、暖かい陽光に静かに頭をも

たげ初めました。

太陽はだんだん高く昇りました、そして、やがて、高いところから低いところへと光線が流れて行きます。

快ろよい朝風に頬をなでて行く微風に私はうつとりと窓の外を眺めてみました。何とも云ひ様のない程さはやかな景色です、島のカフエの葉が金色に輝いてゐるのです。昨日の雨で一層美しくくなって、カー杯に伸びてゐます。青く澄みきつた空には綿のやうなチギレ雲が處々に浮いてゐます。涼しい風が通ると私のからだにうつってゐる椰子の葉陰がかげろうのやうにチラチラします。椰子の葉も一枚々々強い日光に黄色くまばゆい程光つてゐます。

島の下を流れる小川のせせらぎが微かにきこえてゐて、私はぼつやり水の音をきいてゐました。ふと夢から、さめたやうな気持ちで足下を見ると小さな赤で名も知らぬ草花が風にゆれて、優しく香つてゐました。

◇ピシーナ 三¹⁵、白石保行

青い青いピシーナの水、僕は泳ぐのが大好きだ。僕は舟にのつて遊んだ。広い広いピシーナだ。つばめがスイスイ水の上をとんでゐた。僕たちもぎぶぎぶ泳ぎ出した。

◇ピシーナ 三¹⁵、渡勝美

昨日僕達は町に水泳に行きました。ピシーナの水は青い青い水でありました。僕たちは水の中に勢いよく飛びこみました。しばらく泳いでゐると先生が辨当を食べてもゐいと言はれましたので、みんなグラマの上に座って食べはじめました。辨当をたべて、しまふと又水の中に飛びこんで、泳ぎました。浅いところでおにごっこをしたり、競泳をしたりして遊びました。かへりはすつかりつかれて、カミニヨンでかへりました。

◇ピシーナ 五¹⁵、坂本春津男

昨日僕たちはピシーナに行きました。着いてみると、ちょっとこはいやうに水は青々としてゐました。始めは恐ろしくて、入れませんでしたが一人がとびこむとそう深くありませんでしたので、それからどんどん泳ぎはじめました。

二時間位およぐと先生が私たちをボートにのせて、真中のところまで行きました。すると親則右が高い台の上から、ドブンと飛び込みました。

それから、みんなも面白く、水のかげ合ひをしたりして、四時かへりました。町に来て、買物をしたり、ソルベッチを食べたりして、五時過ぎ、中村さんのカミニヨンでかへりました。

编者より!!

純真な子供の世界はこうした作文によつてもうかがわれるように、小さな変化にも無限の歓喜を感ずるのです。愛する子供のためにどうぞ親として、出来るだけの努力をいたしましょう。見学旅行や水泳等には、どしどし子供を参加させて下さいませ。

編集後記

一、謹みて新年の御祝詞を申し上げます。

戦勝の春を迎えて遥かり聖寿の万歳を寿き奉り併せて今次の聖戦に活躍する皇軍将士に対して心からなる感謝の意を表す。

一、曙もこの度に九才の幸を迎え植民地の機関紙をしての使命を果すべく編集子は努力を続け

ております。皆様の玉稿をいただいて新年号の発行を見た事は感謝に堪えません。一年の計は元旦にありとか、ああもしたい、こうもしたいとあらゆる希望をのせて第九巻第一号のスタートを切りました。今後共よろしく御鞭撻、御指導あらん事を。

- 一、西岡氏より年頭の漢詩を戴き厚を感謝致します。また「新春を迎えて非常時に処す」石橋氏の稿は我々にある何物かを暗示しております。御精読を乞う所存。
はるばるサンパウロの空より先輩中村政之氏の詩を戴きました。氏の御奮闘を祈ります。
第二号のメ切は二月五日です。御投稿あらん事を！

「昭和六年十二月六日 発刊
昭和十四年一月八日 発行
発行所ノロエステ線アラサツバ駅
カフェーゾポリス植民地
カフェーゾポリス青年会
文芸部」（裏表紙）

【注】

- 1 在留申告書は1938年5月4日付第406号大統領令により、ブラジル国籍保持者以外の18才以上60才以下の全ての外国人が申告するものとなった「外国人登録」（RNE: *Registro Nacional de Estrangeiro*）だと考えられる。
- 2 「処女会」は現在の表記で「乙女会」、カフェーゾポリス植民地の男子青年で構成される「青年会」（*Associação dos Moços*）に対する、女子青年で構成される女子青年会という意味合いだと考えられる。
- 3 澤田節蔵（1884-1976）、1934年にブラジル大使任命、1938年に帰国。1949年に東京外国語大学初代学長に就任。
- 4 「サイタサイタ、サクラガ、サイタ」は通称「サクラ読本」、日本国内では1933年から1940年まで尋常小学校で使用された『小学国語読本』の巻一である。「ハタ、タコ、コマ」は通称「ハタタコ読本」、日本国内では1909年から1917年に使用されていた『尋常小学読本』の巻一である。文部省（現文部科学省）が編纂した国定教科書は1903年の第一期から1947年の第六期まであり、「サクラ読本」は第四期、「ハタタコ読本」は第二期である。日本では、「ハタタコ読本」と「サクラ読本」の間の1918年から1932年は、通称「ハナハト読本」と呼ばれた『尋常小学校国語読本』が使用されていた。
- 5 「サクラ読本」の2~7ページは以下の文が並ぶ。
2p サイタサイタ
3p サクラガサイタ
4p コイコイ シロコイ
5p ススメススメ ヘイタイススメ
6p オヒサマアカイ アサヒガアカイ
7p ヒノマルノハタ バンザイ バンザイ
- 6 二宮尊徳こと二宮金次郎は、江戸時代末期に関東から南東北の農村復興に尽力した人物。
- 7 ブラジルにおけるポルトガル語の正書法は、1931年にブラジル文学アカデミーとリスボン科学アカデミーの協定が最初のものであり、1939年の本資料ではそのため新・旧二通りと記載されている。その後、1943年、1971年、1975年の協定を経て、最新の改正正書法は

2009年に施行されている。

- 8 オーロ・ブランコ (ouro branco) は「ホワイトゴールド (白金)」を意味し、ここでは「綿」を表す。
- 9 アローバ (arroba) は質量の単位で、ブラジルでは 15 キロに相当する。現在においても、牛・豚・綿の市場で使用されている。
- 10 アルケール (alqueire) は面積の単位で、ブラジルでは地域によって大きさが異なる。本資料はサンパウロ州であるため、「サンパウロ州のアルケール (alqueire paulista)」だと考えられ、2.42 ヘクタール、つまり 24,200 平方メートルになる。現在においても、ヘクタールと同様農地面積を表すために使用されている。
- 11 1939年時点のブラジルの貨幣は「リアル・レイス (単・複)」(資料ではレースと表記) および「コント・コントス (単・複) (百万レイス) であり、当該通貨は 1834 年 10 月から 1942 年 11 月の間使用されていた。その後インフレ対策のためデノミネーションを繰り返し、2019 年現在まで、クルゼイロ、クルゼイロ・ノヴォ、クルゼイロ、クルザド、クルザド・ノヴォ、クルゼイロ、クルゼイロ・リアル、リアルと変更されている。1939 年の「リアル・レイス (単・複)」から 2019 年現在の「リアル・レアイス (単・複)」までは、5 回 1,000 から 1 へのデノミネーション、1 回 2,750 から 1 への切り替えが行なわれた。
- 12 サンパウロ州北西部ノロエステ沿線上のバウル領事館管内のことである。バウルに領事館が設置されたのは 1927 年で、ブラジル政府が日本との国交断絶を通告し 1942 年に閉鎖された。
- 13 ドッジボールの意。日本ドッジボール協会によると、現在親しまれているドッジボールの原型は 1900~40 年頃であり、この頃のドッジボールは「デッドボール」と呼ばれ、初めて日本に紹介されたのは明治 42 年、「円形デッドボール」という名称であった。
- 14 言葉遊びによる懸賞の紹介である。
 - ・おしゃべりな友の信用は「カレンダー」のように一日ずつうすくなる
 - ・金語楼の落語と「漫画の本」は面白くてたまらない
 - ・短距離選手と「けずりかけのラーピス (鉛筆)」は早くかける (駆ける・書ける)
 - ・仲のよい友達同志と「あめ (飴)」はくっついて離れない
 - ・勉強の大きらいな少女と「石けん」はよく落ちる (試験に・汚れが)
 - ・女学校入学希望者と「かるた」は上る (合格・終了する) が楽しみ
 - ・晩秋の銀杏と「絵葉書」は葉が黄 (葉が黄色、はがき)
 - ・風邪をひいたお文係と「少女倶楽部 (講談社、1923-1962 年)」はゴホンゴホン (咳の音、ご本)
 - ・お汽車の称ある村社選手 (日本の陸上競技選手でベルリン五輪代表の村社講平) と「ペーナ (pena、羽ペン)」はよくかける (駆ける・書ける)
 - ・優等生と少女倶楽部の関係と「古カニベッチ (ジャックナイフ)」は切ってもきれない (仲・もの)
 - ・チブス (チフス) 患者と「鏡」はよくうつる (伝染する・映る)
 - ・来年の運勢と「マンガ」はまんがよい (岡山や大分の方言で「運が良い」・漫画良い)
 - ・紙のこ (鋸・の子) と「サンチーニア (聖女像)」は神の子
 - ・氷のてんぷらと「空くじ」はあげられない (揚げられない・景品をあげられない)
- 15 学校日誌に記載されている名前と学年から、児童作文欄に記載の五・四・二はそれぞれ学

年（小学五年生・四年生・二年生）を表していることが確認できる。

【参考文献・参考サイト】

- 野中モニカ（2018）「戦前のカフェーズポリス植民地と会報誌『曙』—ブラジルのナショナリズム政策から日本語教育中止まで—」天理アメリカス学会編（2018）『アメリカス研究』第23号, 99-118pp.
- 前山隆（2001）『異文化接触とアイデンティティ—ブラジル社会と日系人』御茶の水書房
- Câmara dos Deputados. Decreto-Lei nº 406, de 4 de Maio de 1938
<https://www2.camara.leg.br/legin/fed/declei/1930-1939/decreto-lei-406-4-maio-1938-348724-publicacaooriginal-1-pe.html>（2019年10月29日アクセス）
- Câmara dos Deputados. DECRETO-LEI Nº 2.162, DE 1º DE MAIO DE 1940
<<https://www2.camara.leg.br/legin/fed/declei/1940-1949/decreto-lei-2162-1-maio-1940-412194-publicacaooriginal-1-pe.html>>（2019年10月29日アクセス）
- História da Ortografia do Português <<http://www.portaldalinguaportuguesa.org/?action=acordo-historia>>（2019年11月2日アクセス）
- Medidas Agrárias<<https://brasilecola.uol.com.br/matematica/medidas-agrarias.htm>>（2019年11月2日アクセス）
- Significado de Arroba<<https://www.significados.com.br/arroba/>>（2019年11月2日アクセス）
- Social Bauru. 110 anos de imigração japonesa: as influências do Japão em Bauru
<https://www.socialbauru.com.br/2018/08/27/imigracao-japao-bauru/>（2019年10月29日アクセス）
- 絵で見る国定教科書の変遷< <https://s-opac.sap.hokkyodai.ac.jp/library/?q=ja/kyokasho-2> >（2019年11月2日アクセス）
- 二宮尊徳と報徳< <https://www.hotoku.or.jp/sontoku/> >（2019年10月29日アクセス）
- 日本ドッジボール協会「ドッジボールの歴史」< <https://www.dodgeball.or.jp/>ドッジボールの歴史 />（2019年10月29日アクセス）
- ブラジル移民の100年「日米開戦前後の日系社会の状況」
<https://www.ndl.go.jp/brasil/s5/s5_2.html>（2019年10月29日アクセス）